

[17]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/2004987>

出版情報：韓国研究センター年報. 17, 2017-03-31. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



挨拶

九州大学韓国研究センター長 中野 等

韓国研究センター長の中野等です。センター年報17号の刊行にあたり、関係者の皆さまにご挨拶させていただきます。昨年度から今年度にかけては、本センターの開設以来とも言うべき、極めて大きな節目を迎えました。昨年三月、長くセンターの専任教授をつとめられ、まさに本センターの「顔」であった松原孝俊がめでたく定年退職の時を迎えられました。ついで、四月には新たな「顔」として佐賀大学から永島広紀教授を迎えております。永島先生は近現代史を専門とする気鋭の歴史研究者として知られ、主著『戦時期朝鮮における「新体制」と京城帝国大学』をはじめとする数々の研究成果によって学界の主導的立場にあります。

1999年に本センターは我が国の国公立大学として唯一、韓国学に特化した研究施設として、開設されました。その後、日本国内における朝鮮・韓国学研究は発展の一途をたどり、朝鮮・韓国学を主軸とする研究施設が次々に開設されてきました。こうした他の研究施設との間に、どの様にして戦略的な差別化を進めるか？松原孝俊教授のご退職を前に、本センターに課された大きな課題でした。学内に広く有為な人材を求めて組織改革のタスクフォースを設け、議論の末たどり着いた結論のひとつが「歴史」であります。もとより、学内の共同利用施設として、排他的に歴史研究のみを推進するなどと言うことは考えておりませんが、殊更に時間軸を意識して現在の諸課題を分析するというスタンスは極めて重要であり有効なものでしょう。加えて、九州という地域の「周縁性」も、ここでは絶大なアドバンテージに変容していくこととなります。

こうした今後の方向性を考えた時、センターとして永島先生に寄せる期待の大きさについては、もはや贅言を要しません。なにやら随分と身びいきな、巻頭のご挨拶になりましたが、新任の永島広紀教授への「ご祝儀相場」と、ご海容いただければ幸甚に存じます。再スタートするセンターらしく、年報も体裁・内容共に、大きく刷新したものをお届け致します。新たな「顔」を迎えた韓国研究センターに、ますますのご理解とご支援を祈念しつつ、年報刊行のご挨拶にかえさせていただきます。